

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成30年4月26日(2018.4.26)

【公開番号】特開2018-10311(P2018-10311A)

【公開日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【年通号数】公開・登録公報2018-002

【出願番号】特願2017-161404(P2017-161404)

【国際特許分類】

G 02 B 17/08 (2006.01)

G 03 F 7/20 (2006.01)

G 03 F 7/22 (2006.01)

G 02 B 13/18 (2006.01)

【F I】

G 02 B 17/08 A

G 03 F 7/20 5 2 1

G 03 F 7/20 5 0 1

G 03 F 7/22 H

G 02 B 13/18

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月15日(2018.3.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

自身の物体平面上に配置されるパターンを自身の像平面上に結像させるカタジオプトリック投影対物レンズにおいて：

物体フィールドを結像させて第1の中間実像を形成する第1の対物レンズ部分と、前記第1の対物レンズ部分から到来する放射を用いて第2の中間実像を生じしめる第2の対物レンズ部分と；

前記第2の中間実像を前記像平面上に結像させる第3の対物レンズ部分とを有し、前記第2の対物レンズ部分は、凹面鏡を有するカタジオプトリック対物レンズ部分であり、

前記物体平面から到来する放射を前記凹面鏡の方向に偏向させる第1の折曲鏡と、前記凹面鏡から到来する放射を前記像平面の方向に偏向させる第2の折曲鏡とが設けられ；

正の屈折力を有するフィールドレンズが、前記第1の中間像と前記凹面鏡との間ににおいて、前記第1の中間像のフィールドに近接する領域内に配置され、

前記フィールドレンズは、前記凹面鏡から上流においてビーム路内に配置される前記第1の中間像に光学的に近接するだけではなく、前記凹面鏡から下流においてビーム路内に配置される前記第2の中間像にも光学的に近接するように配置される投影対物レンズ。

【請求項2】

請求項1に記載の方法。